令和8年度

第56回 全国小学校国語教育研究大会（東京大会）

第37回 東京都小学校国語教育研究会研究大会

基調提案

東京大会主題

「他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習」

副主題

令和５年度　「言葉による見方・考え方」を働かせる学びをつくる

令和６年度　身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める

令和７年度　学びを通して身に付けた言葉の力を日常生活で生かそうとする

３年間の研究を通しての提案

提案１　学習者視点

提案２　学びと生活の往還

提案３　領域をまたいで関連付ける指導

提案４　指導事項にあった言語活動

提案１　学習者視点

- 身に付けた言葉の力を他教科や日常生活に活用し、豊かな言語生活を実現するのは児童である。
- 学習者視点から整理した概念「個別最適な学び」

「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して」（令和３年１月）より

- 「生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる」

「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（令和８年10月）より

児童主体の学習へ

提案１　学習者視点

【児童の視点で考えると】

・言葉による見方・考え方を働かせることにより、言葉への自覚が高まる。
・言葉の使い方や使われ方に対する視点や規準をもつことができ、身に付けたい言葉の力を意識できる。



自ら学びを進める児童へ

提案１　学習者視点

【昨年度実践】

・話すこと・聞くこと部
　日々の生活やこれまでの学習から話し合うことのよさや課題を振り返ることで、児童自らが身に付けたい力を設定した。

・書くこと部、言語部
　児童の必要に応じた柔軟な学習過程を設定し、学習の自己調整ができるようにした。

提案２　学びと生活の往還

【昨年度実践（外向きの矢印）】

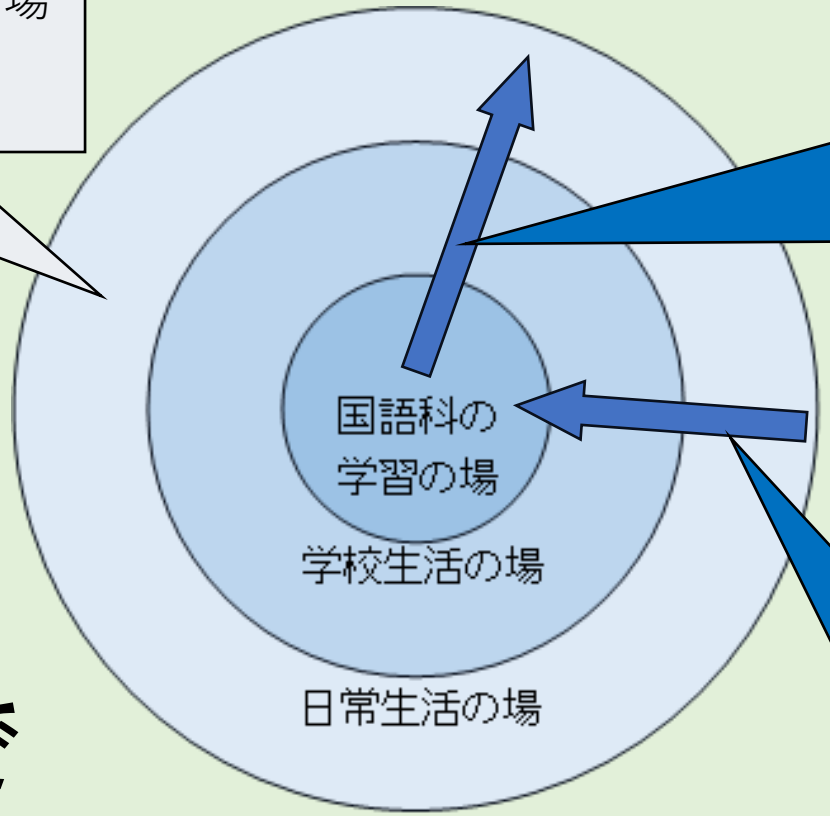
・読むこと部

　教材や終末の言語活動の工夫により、児童は読むよさや面白さに気付き、日常生活の中で幅広く読書に親しむようになった。

提案２　学びと生活の往還

日常生活の場 ➡ 豊かな言語生活の場

「言葉の力」を生かす



外向きの矢印

国語科の学習で身に付けた「言葉の力」が学校生活の場や日常生活の場で発揮される学び

内向きの矢印

日常生活の場や学校生活の場から見付けた「言葉の力」の課題や問題点を、国語科の学習の場で解決していく学び

国語科の学習、学校生活、日常生活の場で学びが往還

提案３　領域をまたいで関連付ける指導

・領域は違うが、身に付けたい資質・能力に共通する部分が多い指導事項がある。

提案３　領域をまたいで関連付ける指導

【昨年度実践】

・話すこと・聞くこと部

　　ア　話題の設定、情報の収集、内容の検討

　　５年「５年生のタブレット教室」

・書くこと部

　　ア　題材の設定、情報の収集、内容の検討

　　６年「生かしてほしい　私の提案」

提案３　領域をまたいで関連付ける指導

【昨年度実践】

・話すこと・聞くこと部

　　オ　話合いの進め方の検討、考えの形成、共有

　　５年「５年生のタブレット教室」

・読むこと部

　　カ　共有

　　６年「伝え合おう、太一の生き方、私の生き方」

提案３　領域をまたいで関連付ける指導

・領域は違うが、身に付けたい資質・能力に共通する部分が多い指導事項がある。

・そのことを踏まえて指導を行うことで、より一層効果的に資質・能力の定着を図ることができる。

・領域をまたいで関連付けることでより指導の充実を図ることができる。

提案４　指導事項にあった言語活動

【昨年度実践】

・書くこと部と言語部で同じ指導事項を設定した単元

〔知識及び技能〕(1)ア「言葉の働き」

〔思考力、判断力、表現力等〕「B　書くこと」
　　ア「題材の設定、情報の収集、内容の検討」

提案４　指導事項にあった言語活動

【昨年度実践】

・書くこと部　１年「〇〇小へようこそ」
　紹介する場所や人を決めたり、取材したりする言語活動。〔思考力、判断力、表現力等〕

・言語部　２年「２年２組チャレンジかるた」
　かるたの読み札を考える中で、より言葉や表現に着目する言語活動。〔知識及び技能〕

提案４　指導事項に適した言語活動

- どの指導事項を中心に指導していくかで、言語活動が大きく変わる。
- 指導の中心となる指導事項に適した言語活動の検討が重要
  □中心となる指導事項は明確か
  □言語活動を児童は理解できているか
  □児童にとって魅力的な言語活動か

令和8年度

第56回 全国小学校国語教育研究大会（東京大会）

第37回 東京都小学校国語教育研究会研究大会

基調提案　ご清聴ありがとうございました